

P-D-2

当院入院患者における健康食品・サプリメント等摂取の現状

○村井 扶¹⁾，大森 恵子¹⁾，西田 真理¹⁾，杉浦 香織¹⁾，竹中 美樹¹⁾，
柳本 悦子¹⁾，橋本 陵¹⁾，村川 公央¹⁾，門脇 裕子¹⁾，上田 幹子¹⁾，
伊藤 壽記³⁾，岡本 禎晃²⁾，上島 悦子²⁾，黒川 信夫¹⁾

1) 大阪大学医学部附属病院 薬剤部，2) 大阪大学薬学研究科，
3) 大阪大学大学院医学系研究科生体機能補完医学講座

【目的】

近年，健康食品やサプリメントについて関心が高まり，インターネット等により容易に入手できるようになった。なかには安全性に対する問題や医薬品との相互作用が生じる場合も少なくなく，また，これらの効果に過剰な期待をもち初期治療が遅れるといった例もある。大阪大学医学附属病院では薬剤師による入院時の持参薬確認の一環として健康食品・サプリメントの摂取状況についても患者より直接聴取しており医師，看護師へ情報提供している。今回，入院患者における健康食品・サプリメントの摂取状況を診療科，疾患ごとに比較検討したので報告する。

【方法】

調査期間は2005年10月の1ヶ月間とし，薬剤管理指導を実施しているすべての診療科の入院患者を対象とした。患者入院時に薬剤師による持参薬確認を行う際に，健康食品やサプリメントの摂取状況についても聴取した。なお，重症患者や短期入院のため，面談実施困難な患者は対象から除外した。

【結果】

健康食品・サプリメントの摂取状況は，わずかに女性の方が高く，1人あたりの摂取品目数でも男性で約1.5品目，女性で約1.8品目であった。また，診療科別にみると腎臓内科では摂取している患者はいなかった。疾患別の摂取率ではパーキンソン病，B・C型肝炎，リウマチ患者で40%を超えていた。これに対し悪性腫瘍での摂取率は26.3%と低かったが，摂取患者全体では悪性腫瘍患者が半数近く占めており，摂取内容も40%弱が免疫力を高めるなどを期待するものであった。

【考察】

健康食品・サプリメントの摂取状況の把握は，薬との相互作用，治療への影響，それら自体による健康被害などを発見する上で重要であると考ええる。また，それらの効果については明確に証明されているものが少ないが，今後摂取者は増加していくと思われ，我々薬剤師も健康食品・サプリメントについてのエビデンスなどを踏まえた対応が更に必要となってくるものと考ええる。